

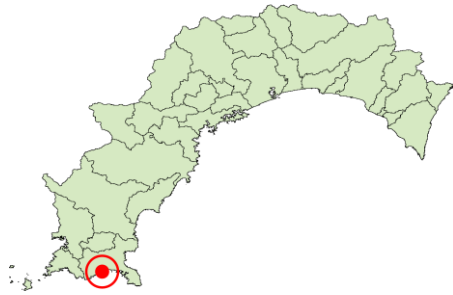
地域の観光や漁業を支えるサンゴの保全

みんなの海を育てる会

竜串湾について

竜串湾（たつくしわん）は、高知県土佐清水市南西部に位置しており、数々の奇岩や奇勝がみられる景勝地として知られている。

湾は、黒潮の影響を強く受け、温帯域でありながら、亜熱帯性の海洋生物が数多く生息する。また、特に、イシサンゴ類をはじめとするサンゴ群集の規模が大きく、その豊かな生物空間が地域の観光業や漁業を支えている。



竜串湾のサンゴ群集の現状と組織設立の経緯

竜串湾では、平成元年頃よりサンゴの衰退が認められるようになった。また、平成13年9月に高知県西南地域で発生した局所的な集中豪雨によって、川の上流域から大量の土砂が湾内に流入し、多くのサンゴ群集が死滅した。

竜串湾は、地域の観光業や水産業にとって重要な場である。また、環境省が指定する海域公園でもある。そこで、衰退した竜串湾の環境の再生、またそれを支えるサンゴ保全の持続化を目的に、環境省の呼びかけで、平成18年に「竜串自然再生協議会」が設立され、プロジェクトがスタートした。また、これをきっかけに、湾内で漁業を営む生産者や漁協が、水産多面的支援対策事業の前身である環境・生態系保全対策を活用して、当組織「みんなの海を育てる会」を平成21年度に設立し、現存するサンゴの保全を目的とした活動を開始した。



資料：土佐清水市

H13 豪雨災害時の市内沿岸部の様子

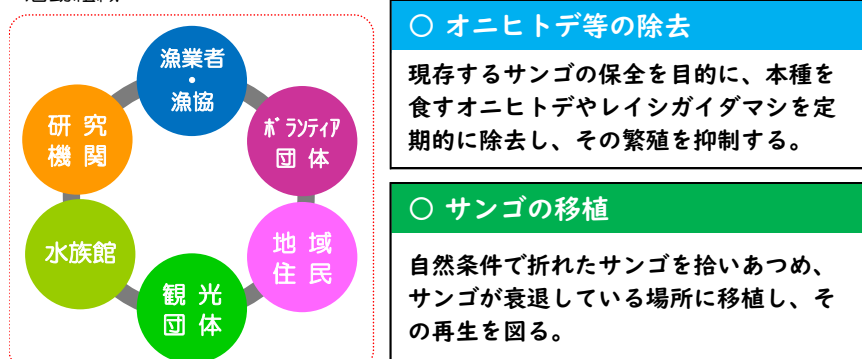


オニヒトデ大量発生による食害

組織の体制と活動方針

「みんなの海を育てる会」は、漁業者・漁協だけでなく、オニヒトデ駆除等を長年行ってきた観光関連団体やボランティア団体、黒潮生物研究所や水族館などの専門家、また竜串湾のファンである地域住民で構成する。また、当会ではサンゴ保全だけでなく、湾内の藻場保全も行っており、サンゴは観光関連団体、藻場は漁業者を主体として取組を進める。

活動組織



サンゴ保全の取り組み

(1) オニヒトデ等の食害生物の除去

サンゴを食すオニヒトデやレイシガイダマシは、増減を繰り返しながら湾内外に生息する。また、大量発生する年も度々あり、現存するサンゴ群集に大きな被害を与える。これら食害生物の繁殖を抑制するために、定期的に除去活動を実施している。

活動は、ほぼ周年行っており、水産多面的支援委託事業では月に2～3回行っている。オニヒトデの除去方法は、スクーバ潜水で鉤棒を用いて採取し、網に入れ、水揚げする。また、レイシガイダマシは、小型であることから徒手やピンセットで採取する。なお、マンジュウヒトデもサンゴを食い荒らすことから、確認したら採取するようにしている。

回収したオニヒトデについては、産業廃棄物として有償で処分する。



(2) サンゴの移植

自然条件等で折れたサンゴを海底から拾い集め、サンゴが減少している場所に移植し、その再生を図る。活動時期は、台風シーズンが収束する11月。移植は、拾ってきたサンゴを基板となる岩礁に水中ボンドで取り付ける方法で行う。移植しているサンゴの数は、毎年60～100片程度としている。



活動の効果と今後の方針

直近3ヶ年の活動エリアにおけるサンゴ被度は、20%前後で安定した推移を示しており、サンゴ群集の維持が図れていると評価できた。一方、オニヒトデの発生状況は、15分間の潜水目視で約3～5個の範囲にあり、発生状態としては「多い（要注意）～準大発生」の基準でここ3年推移している（スポットチェック法によるサンゴ礁調査マニュアル）。

以上より、今後も定期的にオニヒトデを除去し、その大量発生を持続的に抑制していく必要がある。また、この持続化に向けては、今後、人手の確保が重要で、ボランティアダイバーの拡充や新規ダイバーの加入が求められる。加えて、除去活動に必要な特別採捕許可申請で必要となる潜水士免許の取得に対する支援等の検討も併せて進めていきたい。

